



ポスターやビデオレターによる小学校との連携	(2) 小学校との連携・交流
認定こども園	認定こども園千葉明德短期大学附属幼稚園
<b>&lt;実施時期&gt;</b>	7月から3月
<b>&lt;幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に繋がる部分&gt;</b>	
「思考力の芽生え」「言葉による伝え合い」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「社会生活との関わり」「共同性」	
<b>&lt;活動のきっかけ&gt;</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生浜東小学校は、例年小学生が町探検で幼稚園に来てくれ、その後お礼状を届けてくれていた。そのお礼状を「なんて書いてあるの？」と興味深く見ていた。(7月)</li> <li>・ 就学時健診後、子どもたちから、「小学校大きかったよ」「ランドセルもうあるよ」「小学校へいくのに迷子にならないかな」など、期待や不安の声が聞かれるようになった。(11月)</li> <li>・ 扇田小学校とは、例年冬に交流会を設けていただいていたが、コロナ禍で中止となり、残念がっていた。(12月)</li> </ul>	
<b>&lt;活動のねらい&gt;</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校生活への関心を高め、就学に期待をもつ</li> </ul>	
<b>&lt;経験する内容&gt;</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校は、どんなところか、何をするとところかなど興味をもつ。</li> <li>・ 自分なりに考えたり、友だちの前で自分の意見を言葉で話したり、友だちの話を聞いたりする。</li> <li>・ 文字や数字に興味をもち、友だちに聞いたり、自分で読んだり、書いたりする。</li> <li>・ 小学校と幼稚園との違いや、物の大小に気づく。</li> </ul>	
<b>&lt;新型コロナウイルス感染症に対する活動の工夫&gt;</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍という事で、訪問することは難しいが、対話に代わる何かできることはないかと考え、2校の小学校へ、副園長が相談することにした。すると、「生活科で取り上げてみます」と2校とも快く承諾してくださった。子どもたちは、見たり聞いたりなど、視覚を通したものと理解しやすいので、動画や写真などの活用を依頼し、小学校生活への不安を少なくし、期待へつなげたい。</li> </ul>	
<b>&lt;活動の内容&gt;</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校のお兄さん、お姉さん、先生に聞いてみたいことを考えてくるよう、子どもたちに伝える。翌日、子どもたちから意見を聞き、まとめたものを小学校へ年長組学年主任が届ける。</li> <li>・ 生浜東小学校からは、ビデオレター、扇田小学校からは、小学校の一日がわかるポスターが3枚(各クラス分)届く。ビデオレターを見た後、ポスターを紹介、ポスターは、子ども達が見える場所に掲示した。</li> </ul>	
	

<b>&lt;活動でみられた子どもの姿&gt;</b>	<b>&lt;環境構成・教材や保育者の援助等&gt;</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校へ聞いてみたいことは、自分なりに考えてきたり、兄姉に聞いてきたりしていた。その意見を「どんなべんきょうをするの」「きゅうしょくはどんなの」「どんなへやがあるの」「せんせいはやさしいのかな かわいいのかな」など積極的に手をあげて発言する子が多かった。</li> <li>・ビデオレターやポスターを見せると「このひとしてる～」 「きゅうしょくおいしそうだね」など興味津々だった。その後、小学校について気づいたことを話す時間を設けると、「ほんとうにしょうがっこうにいったみたいだった」「しょうがっこうにも、うんていがあるんだね」「そうじもするんだね。ようちえんとおなじだね」など様々な意見が出た。</li> <li>・ビデオレターや写真のお礼を言いたいという意見があったため、子どもたちの思いをどう伝えたらよいか話し合う。「てがみをかきたい」「しゃしんをとる」「ビデオをとりたい」など意見があった。その中から手紙を書くことになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちからの質問に「よく考えてきたね」「どんなかんじだろうね」など共感しながら、子どもたちからの質問が出やすいような雰囲気をつくっていく。</li> <li>・普段自分から意見が言えない子もいるので、「○○ちゃんはどうか」と聞いてみたり、発表できた時は、その姿を認め、自信につなげていく。</li> <li>・ビデオレターやポスターを見ることで、気づきや新たな疑問が出るように、ゆったりとした時間や場所をつくっていく。</li> <li>・子どもの意見を取り上げることで、さらに文字への興味関心をもち、手紙を書く姿へつながった</li> <li>・「“あ”ってどう書くの」と保育者や友だちに聞いたり、あいうえお表を見て書いたりなど、文字への興味が広がる姿がみられた。</li> <li>・卒園間近だったこともあり、「おかあさんへも手紙を書きたい」という姿もみられた。</li> </ul>
<b>&lt;成果と今後の課題&gt;</b>	
<p>・コロナ禍のため、交流は中止となってしまったが、そこで終わりとするのではなく、それに代わるものを考えたこと、小学校にも協力していただいたことで、小学校への期待や、より身近に感じられる機会をつくれたことは、よかったのではないかと考える。ビデオレターとポスターのお礼の手紙は、学年主任が届ける。幼稚園の行事の関係もあり、この活動が時期的に遅くなってしまったので、もう少し早めに計画できるようにしたい。またこの活動について、幼稚園、小学校の教員でゆっくりと話し合う機会が作れたらよりよかった。今後もコロナ禍は続くと思われるので、状況に応じて交流の方法を工夫、発信していく必要がある。</p>	
<b>&lt;カリキュラムコーディネーターのコメント&gt;</b>	
<p>例年の小学生の町探険の幼稚園訪問が小さなきっかけを作っていました。小学校からの訪問へのお礼状を子どもたちに見せることが小学校への具体的で現実的な興味・関心を引き出したのだと思います。その経験が足場になり、就学前健康診断や小学校準備の経験からさらなる興味に繋がったのでしよう。対話に代わることを模索し、小学校に投げかけたことが「ビデオレター」と小学校の一日のポスターに繋がり、その心のこもった作品を通して願っていた「対話」が生まれたのだと確信します。そして、その経験が幼児からのお礼の手紙が書きたいという主体的な小学校への想いを育んだと思います。小学校も幼稚園も子どもたちへの温かな思いやりがいっぱいの実践でした。</p>	

